

平成 27 年 5 月 5 日発行

大町山岳博物館友の会 第 165 号

ゆきつばき通信



【報告】平成 27 年度山博友の会 総会 が実施されました

平成 27 年 4 月 26 日（日） 午後 3 時～午後 5 時

山岳博物館 講堂

出席者 20 名（含館職員 3 名）

平成 27 年度総会は 20 名の参加で実施された。

会長からは、「山博が変わってきている、友の会はあまり変わっていない。共催で忙しい面もあるが自分たちも楽しくやっていたらと思う」と挨拶をいただいた。

鳥羽館長からは、「昨年異動し、H27 年 4 月より館長となった。わからないことだらけだが、友の会にも教えてもらいながら友の会とともに事業を進めていきたい」とご挨拶をいただいた。

栗林氏を議長に選出し、報告等がなされた。（別紙総会資料を参照ください）
議事を整理すると次のような内容であった。



総会の様子 宮澤会長（右上） 鳥羽新館長（右下）

○冬のライチョウ観察会はライチョウが見られなかった。要望も高く再度実施されたい

→いろいろな形でライチョウ関連事業を実施したい。今年は爺ヶ岳の観察会を実施する

○山でのけが 烏帽子も高齢化、応急手当講習を。また、初心者に対する基礎的な講座も実施して入会に結び付けてほしい

→友の会でもできることがあり、教育普及の観点からいろいろな機会を作っていくたい。セルフレスキューなど、県山岳総合センターでの講習会に烏帽子の会などで参加しても良い。事業は登山のみに観点を置いてはおらず、また、会員外を対象とした事業は友の会の趣旨とは異なってしまうため、さまざまなアプローチ、共催事業で市民参加を狙う。必要なことは市へも要望したい。

○会費を一年間滞納したときは退会・・・は厳しい

→2年以上請求しても継続される方はいないので、規定する。行事に参加できない会員にも解説書の配布などで還元していきたい。

このほか、山岳博物館協議会の委員に宮澤会長を再任し、今回役員を退かれる西沢氏にご挨拶をいただいた。最後に長沢顧問より「子どもの参加が減少したことが残念である。これからも友の会活動をよろしく願いしたい」と講評いただき閉会となった。

新役員体制

会 長	宮澤洋介
副会長	塩瀬淳也 有川美保子
運営部	川崎 晃 (部長) 宮田京子 (副部長) 川崎祐子 高野淳子 松井 昭 松井啓子 丸山優子
編集部	丸山卓哉 (部長) 中畑清貴 (副部長) 仙波美代子 宮澤洋介
事務局	千葉悟志 鳥羽章人 清水隆寿 関 悟志 佐藤 真
監 査	越山頼子 瀬戸口三栄子
顧 問	千葉彬司 長沢正彦

主催行事

1. 平成 27 年度大町山岳博物館友の会総会

共催行事

1. 山の歴史ウォーキング 体感！ 山岳文化都市おおまち 市街地編 平成 27 年 6 月 20 日 (土)
2. 北アルプス爺ヶ岳でライチョウを観察しよう！ 平成 27 年 7 月 19 (日) - 20 日 (月祝)

3. 山の歴史ウォーキング 体感！ 山岳文化都市おおまち 高瀬入編 平成 27 年 10 月 18 日（日）
4. 座学 カクネ里氷河調査探検記（平成 28 年度友の会総会） 平成 28 年 4 月 24 日（日）（次年度事業予告）

会則等改訂要点

年 2 回の分納制度の廃止 会費を一年間滞納した時は退会 会報発行の不定期化

【報告】大人ための観察会・冬のライチョウを見に行こう！ が実施されました

去る 3 月 8 日、梅池自然園周辺を会場として冬のライチョウを見る観察会が実施されました。山岳環境研究所の肴倉孝明所長を講師にスキーやスノーシューで探索しましたが、残念ながら白いライチョウの姿は



見られませんでした。今回の観察会に先立ち、2月22日に山岳博物館で学習会「冬のライチョウはどんな生活をしているの？」を実施し、40名の参加者で事前学習を行いました。

※事業の報告は「山と博物館」もご覧ください

烏帽子の会

平成27年5月例会ご案内

藤尾の観音様⇒中の貝⇒大カエデ⇒カミツレの湯

烏帽子の会会員、OBの皆さまへ

花見の季節となりました。皆様いかがお過ごしでしょうか？

5月の例会は総会を兼ねております。又、OBの皆さんにも参加して頂きたいと比較的身近で短時間の行動で、歩き易い場所を計画しました。

藤尾の観音さま（覚音寺＝大町市八坂藤尾）から5km南にあります池田町広津中の貝からカミツレの湯まで歩きます。緩やかなアップダウンを繰り返し先人の暮らしを感じながら里山を楽しめる2時間ほどのコースです。広津日野地区の棚田も見られます。道路は生活道路となっていて自動車が通れますので、足に自信のない方でも大丈夫です。以前のように山々にこだまするほどの笑い声を期待したいものです。

昼は、池田町のシンボル大カエデの若葉を見ながら食事ができることを考えています。晴天を願っていますが・・・私達有川夫婦が当番だと・・・心配ですね。振るってご参加ください。

記

○開催日：5月30日（土）

○集合場所：大町山岳博物館駐車場

○集合時間：午前9時⇒出発：午前9時10分

○行程時間：藤尾の観音様（覚音寺）9：30→大カエデ12：00～13：30（昼食）→カミツレの湯（入浴、総会）15：00→山岳博物館駐車場15：30頃解散

○参加費：1000円位

○持ち物：昼食、雨具、入浴用品、その他

○参加申し込み：5月27日（水） 有川 0261-62-4073（自宅）

活動報告 縞 枯 山

《月日》3月22日(日) 《天気》晴れ 《参加者》10名

《コース状況：その他周辺情報》

下見をしたのが2月11日と1ヶ月以上前だった為、途中の雪の状況はかなりかわっていました。道に雪はあまりなく、縞枯山に雪がなかったらどうしようかと思いましたが、やはりそこはスキー場でまだまだ雪はありました。ただモンスターと言われている樹氷はみることはできませんでした。スノーシューもアイゼンもいないかと思いましたが、登りはスノーシューよりも軽アイゼンのほうが楽で帰りは林の中を下ってきてアイゼンでは雪にズボズボと足を取られて断然スノーシューのほうが歩きやすかったと思います。アイゼンの方は大変だったと思います。

《感想》

今回の山行は、ちょっとしたトラブルの連続でした。

まず最初は担当の川崎が道を間違えて白樺湖をグルッと1周してしまい30分ほど時間をロスしてしまいました。またロープウェイは担当の川崎2人が乗りそこねて皆様をお待たせしてしまいました。重ね重ねすみませんでした。

下山後は仙波さんが手袋を頂上のトイレに忘れて次のロープウェイでおろしてもらい帰りの高速では、若林さんが川崎車と同じ車の後について松本ICで降りてしまったりとちょこちょこしたトラブルがありましたが、全員ケガもなく無事に帰ることができました。お天気もまずまずで気持ちの良い一日を過ごすことができました。

担当の反省点は、下見はもう少し実際の日に近い時にしたほうが良いと感じました。

《コースタイム》

7:00 松川村道の駅集合～8:30 北八ヶ岳ロープウェイ駐車場 9:30～ 縞枯山荘を經由

11:00 縞枯山山頂着～山頂から少し下ったところで昼食 11:30 下山スタート～13:00 駐

車場着～14:00 駐車場発～かっぱの湯 15:10 かっぱの湯発～16:30 松川村道の駅着

花めぐり紀行

昨年発足したサークル「花めぐり紀行」では今年度も下記のような活動を予定しています。活動参加にはサークルへの加入登録が必要になります。

5月23日(土) 花めぐり紀行4 奥裾花自然園をめぐる

7月15日(水) 花めぐり紀行5 ヤマユリ(身延町北川長塩集落)

9月20日(日) 花めぐり紀行6 大阿原湿原と入笠湿原をめぐる

山岳文化研究会

本年度より活動を再開します。大まかですが活動内容（予定）は次のとおりです。

- 1) 「北アルプス登山資料 (3) (4)」の編集協力作業
既刊の(1) 鹿島槍ヶ岳、(2) 白馬岳に続き、爺・針の木および黒部川からの後立山を2か年かけて編集します。
- 2) 「黎明期の登山家(跡)を訪ねる」ボランティアの会と合同研修
明治の近代登山黎明期の横浜を中心とする足跡を訪ねます。11月～12月頃1泊
- 3) 「山の歴史ウォーキング 大町市街地編」への参加協力
その他

サークル参加者募集中です。例会は平日の夜行います。ちなみに第1回目は5月14日(木) 18:00～20:00(山博宿直室)

ボランティアサークル

ボランティアサークルでは本年も館事業に協力し、展示解説、来館者のご案内、館及び周辺のみ化活動等を実施していきます。また、12月には山岳文化研究会と共催して研修会を実施します。ぜひボランティアサークルに登録して活動に参加してください。

当面は、5月23日(土)まで信濃大町駅前展示したサクラソウの灌水、5月24日(日)にはサクラソウの博物館への回収を行います。また、毎月第4日曜日に館及び周辺のみ化活動と山と博物館等の発送準備等を行います。



活動報告

4月は19日、26日にサクラソウポットの除草、26日に山と博物館の発送準備を行いました。また、5月2日にはサクラソウポットを大町駅前広場公園に移動展示しました。

※昨年実施された解説ボランティアガイドの録音起しを載せませす（最終回）。

山博展示改装 解説ボランティアガイド録音より 5

1階 山と人 展示について（解説：関学芸員） その2

山岳人列伝—山岳文化を育んだ大町周辺の人々—

大正時代になると日本でも近代登山が行われるようになってきて、ここで一番有名なものとして、伊藤孝一さんという名古屋の資産家が冬の立山を越えた資料を紹介しています。これには百瀬慎太郎さんや赤沼千尋さんも参加して冬の立山を越えています。この山行の何がすごいかというと、家族にホームビデオを見せるために登山を行ったということで、道中の荷物や食料も全部背負わせて、越中の案内人を付けてすごい登山隊を編成して20日以上かけて北アルプスを越えています。冬の北アルプスを横断するごくごく初期の記録だったのですが、このようにお金をかけているものですから、当時の登山界は金持ちの大名登山だということで、あまり記録として評価をしなかったようです。ただ、ここにも映像があるのですけれど、このような映像がのちのち赤沼さんの家の蔵から発見されたりして、特に立山博物館（富山県）でいろいろ検証して今では大変貴重な登山だったとなっています。

針ノ木に小屋がつけられたりしてきますが、あとは戦後になってやはり黒部の電源開発ということで、黒四建設が大きな歴史としてあります。黒部とか高瀬川の水力発電は、戦後というよりもすでに大正時代から始められていて、電気が日本でも使われるようになってから各地で水力発電の開発が進められます。

ここにワイヤーの一部を展示していますが、立山黒部アルペンルートの途中にある立山ロープウェーに使われていたメインロープの一部です。一度張り替えられていて、その時に一番太いロープをいただいてあります。以上が峠の歴史ということになります。

あと、反対（部屋の中央部）を見ていただくと、こちらは「山村の暮らし」ということで一つのコーナーを設けてあります。地元として山に近い場所というのは大出といった集落であったり源汲、鹿島といった西側にある山の村なので、そういったところの衣食住を紹介してあります。いろいろな民具がありますが、蓑ですとか藁沓、木を伐り出す道具、そんなものを展示してあります。

木橋（きぞり）、長い方の柄は操作する方で、切り出した木を載せて縄でくくりつけてスキーでいうと、エッジを立ててブレーキをかけながらおろすという道具です。軽い木できていて分解できるので、一人で背負って一人で操作しながら木を下せるという道具です。小谷方面で使われていたものです。

左手ですが（一階展示室奥）写真が小さくていけないのですが、大町山岳人列伝というコーナーで、人物にスポットライトを当てて紹介しています。大町周辺で明治以降の近代登山の中で、裏方をつとめた方を紹介しています。案内人であったり、山人（やまうど）といわれるような人であったり、対山館、白馬の山木旅館といったものを紹介しています。鹿島のおばこと、狩野きく能さんを紹介しています。

大町出身の手塚順一郎さんという写真家ですが、あまり知られていないのですが、作品があまり残っていないのです。というのは、手塚さんは古くから山の写真を撮っているのですが、元々学校の先生だったのですが、山の写真を撮りたいということで、学校の先生をやめて新聞記者になってフリーで写真を撮っていた方です。手塚さんは、山の写真を広めたいということで、絵葉書を作る会社や出版社に惜しげもなく原板を渡してしまっていました。自分の作品が云々ということは特に思わなかったようで、ある時東京へ遊びに行って絵葉書売っている店へ行ったら売

っている絵葉書のほとんどが自分が撮った作品であったということでびっくりしたという文章が残っています。右の奥（1F展示室東壁）にずっと大きな山の写真が飾ってあるのは、この手塚さんの撮影された写真を本人が撮ったものと分かっている物だけを大きく伸ばして展示してあります。

上の映像（モニター）では、展示で見ていただいた北アルプス年代記、大町周辺の山にかかわりのある人を中心にダイジェストで歴史をまとめてあります。5分の映像です。

山村の暮らしは反対側まで続いていて、狩猟、漁労、採集、温泉というテーマで展示してあります。

古く、カモシカ、クマを取っていた人の道具、イワナを釣っていた人の道具などを展示しています。鉄砲が使われる前は、槍を、これはクマ槍ですが、展示してあります。鹿島からお借りしています。その昔、これでクマを獲ったといわれています。柄の部分は火事で燃えてしまったそうで、新しく想像復元してあります。これで押して突いたそうです。

風呂屋の下駄箱の札みたいなものがありますが、先ほど針ノ木峠で見ていただいた、その昔、江戸時代に加賀藩のお締り山に信州からきこりが入った時の鑑札（身分証明書）です。木以外にも鉱物も貴重な山からの恵みということで、採って生活をしていました。湯俣噴湯丘の江戸時代の絵図ですが、善光寺道名所図絵の中にも出てくる紹介ですが、いろいろな細かいアラレ石が川の中から湧き出ている様子が描いてありますが、おそらく見たことのない人が描いていると思われる、実際みなさん知っている通り、噴湯丘の先の所にここにあるアラレ石の球状石灰石ができていたわけですが、当時、盆栽などの敷石に大変貴重で、珍重されたということです。また、ぼこぼこ新しく出てくるので、縁起物としても使われていたということです。山の恵みということで、葛温泉を紹介しています。絵図をこれから増やしていきますが、江戸時代から葛温泉は開拓されてきました。

信仰のコーナーで、「山に祈る」という展示となっています。L字型に区切ってあります。山がどのような形で信仰の対象とされていたかを紹介しています。上原遺跡（わっぱらいせき）の関係の立石である（展示物は上原遺跡からの出土品ではない）。このようなものがストーンサークル環状列石として埋められていたということです。立山に関する文書（もんじょ）があります。西正院大姥堂（せいしょういんおおぼどう）の大姥尊坐像です。佐々成政が運んできたと言説が残っています。こちらは立山にある大姥様の写真です。少し形が違います。信州の人が立山関係の仏像を寄進しているということです。寄進した人へのお礼状、証印ということで授かっているものです。立山詣でということで、信州の野口の大姥堂から針ノ木峠越えて立山に詣でるといって、裏参道として使われていたようです。槍ヶ岳の関係の資料があります。大町は槍ヶ岳の山頂までが大町市ですので、その関係も展示しています。播隆上人が描いたといわれる絵図、たぶんプロの人に頼んで描いてもらったものだろうといわれていますが、右上の尖っているところが槍ヶ岳で、赤いのが道で、面白いのは、槍ヶ岳頂上の横に仏像安置と書いてあるのですが、穂高連峰にも仏安置と書いてあって、播隆上人は槍ヶ岳に仏像を納めるのですが、同時に穂高連峰にも納めたと考えられます。ただ、どのような仏像であったか、残っていないのでわかりませんが、おそらく、石に仏様を墨で描いたものだったかといわれています。その様子を示した縁起があります。あと、播隆上人は名号札（みょうごうふだ）という札を信心さんに配って布教に努めたそうです。南無釈迦牟尼仏（なむしゃかむにぶつ）と書いてあります。

壁面の方は、測量登山であったり、博物学の登山であったり、山の写真や絵画であったりとか、目的別の登山の紹介があります。近代登山ということで紹介しています。

（山案内人組合の）法被、昔のユニフォームです。（山案内人組合は）大町で大正時代に日本で初めてつくられました。その後白馬、烏川、上高地とか北アルプスの登山口ごとにそれぞれ作られていきました。中部山岳協会資料、昭和11年、大町の駅前の三田さんという方が、ハト、

伝書鳩を使った山岳通信の会社を作って、しばらく、昭和16年までやっていました。ハトを入れるカゴと伝書鳩と薄い用箋（便箋）を貸し出して、万が一遭難したら赤い方にSOSなどと書いて送るようなことをしました。カゴは3段階の大きさに変えられて、これで特許を取っています。ほとんど家族への連絡に使われていたようです。白い方は、通常の山頂への到着の知らせなどに使われました。山頂から放すと、数10分で戻ってきて、そこから（大町駅前から）電報などを打っていました。

（山小屋変遷）百瀬慎太郎さんが作った大沢小屋を再現したものです。今回新しく映像（モニター）を追加しました。ボタンを1, 2と押すと、大沢小屋の成り立ちから昔の山での生活が見られます。

山小屋の歴史ですが、小さなのぞき窓から古い山小屋を再現した模型が見られます。信仰の小屋であったり、狩猟の小屋であったり、柚の小屋であったり、近代登山の小屋であったりと、目的別に代表的なものを再現してあります。

アルピニズムということで、大正から昭和初期を中心として社会人山岳会とか大学の山岳会の先鋭的な登山について展示しています。小谷部全助（おやべぜんすけ）さんですとか松濤 明（まつなみあきら）さんを紹介しています。

ヒマラヤへの道ということで、海外登山、ヒマラヤへ日本のアルピニズムがどのようなつながっていたかを紹介しています。ここは新しく作ったコーナーで、ギャチュンカン登山を紹介しています。武田武さんから頂いた資料も展示させていただきました。平林克敏さんの1970年のエベレスト登山の資料です。日章旗を持っています。装備の展示は1970年に日本人で初めてエベレストに登った時の隊員の一人だった平林克敏さんが実際に使われた道具です。頂上で撮った写真といっしょに展示しています。平林さんは大町出身の方で、地元大町高校山岳部の出身です。その後同志社大学に進学してそこでも山岳部で活躍され、社会人になって日本山岳会・エベレスト隊に参加しています。日本人がその時3人登っているのですが、この石を寄贈していただいた松浦輝夫さんと、平林さん、それから冒険家で有名な植村直己さんです。植村さんが使った背負子もここにあります。植村直己さんは当時一番若手で参加され、最終的にはアタック隊に選ばれて頂上に登っています。平林さんは二次アタック隊で、その後に登っています。その時の記念の山頂の石がここに展示してあります。松浦さんと植村さんは隊員のためにエベレストから石をたくさん持ち帰っています。その時のエピソードですが、植村さんと松浦さんが登った時に、頂上で良かった良かったと帰ろうとして、下る段階になって記念に石を拾っていこうということで二人で拾います。しかし、ザックを背負って降りようとしてあまりにも重たくて、これでは危なすぎるということで、石は捨てていこうと松浦さんが植村さんに言ったそうです。しかし、植村さんはたいへん機転がきく人だったそうで、石を捨てずにカメラを捨てていきましょうと提案しました。松浦さんは出かける前に給料をはたいて最新式のカメラを買ってこれは置いていけないと思ったら、そうではなくてテレビ局から預かった映像用のカメラを捨てていきましょうと植村さんは言ったそうです。当時テレビ用のカメラはたいへん大きかったようですが、それを1台何百万円するといわれて預かって持ってきたそうですが、中のテープだけ抜いて本体を捨てる、テープチェンジをするときに過って手からすべったと僕が証明しますと。テープだけ持って帰れば文句はないだろうということで、しかし、谷底に落とすのは忍びないのでそっと岩陰に隠して、カメラの代わりに石を持って帰ってきたということです。その後下りてきて、植村さんは登頂日とサインを入れてベースキャンプで待っている隊員全員にもらってもらったというエピソードです。もう2度とこの場所には来られないということで。

最後は登山の道具というコーナーです。日本の道具と西洋の道具を比較しながら展示しています。明治時代の日本の山案内人の格好と明治時代にスイスアルプスユングフラウに登った加賀さんという方が使った道具です。同じ時代ですが、日本と登山発祥のヨーロッパではこれだけの差

があったということです。100年前のことです。この100年の間にぐっと距離は縮まって、モンベルから寄贈してもらったものですが、日本の製品が登山専用の道具として世界に通用するものになっています。あとは、洋靴とワラジ、アイゼンと金カンジキ、これは雪渓を登るときに使われていたものです。スキーとスノーシューと、日本の輪カンジキです。スノーシューは良い木の葉型のものがなかったので、アメリカ軍が朝鮮戦争の時に使ったものの放出品だそうです。当時、日本ではなかなか登山用の道具が手に入らなかった時で、朝鮮戦争の時の放出品のシュラフであったりザックであったり、はたまた行動食品とか缶詰とか軍用のものが日本で登山用品として売られていたそうです。背負子と背負い袋と西洋のキスリングザックの比較をしてあります。由緒ゆかりのあるもので、キスリングさんが作ったのがキスリングという名前がついていますが、スイスのグリンデルワルトの袋物職人だったキスリングさんが地元のガイドさんに頼まれて荷物がたくさん入るような袋を作ったのが始まりで、これを日本に片桐というザックメーカーがあるのですが、その片桐が持っていたキスリングザックで、これを元にして片桐がキスリングザックを作っていたわけです。キスリング型ザックがいつの間にかキスリングと、リュックザックの代名詞になりました。

平成 27 年度会費未納方へのお願い

新年度が始まりました。早めにお納めくださいますようお願いいたします。友の会の運営は皆様の会費で成り立っておりますので、どうぞよろしくようお願いいたします。

郵便振替口座番号 00550-2-24194 加入者名 山博友の会
個人会員 3500 円 ファミリー会員 4000

ゆきつばき通信編集室より

新年度となってゆきつばき通信はちょっとイメージチェンジをしてみました。行事の案内や報告は「山と博物館」を主体として、本紙はサークル活動の報告など友の会内部の情報にシフトしました。皆さんの投稿もお待ちします。編集部的には運営部と密接な体制となり、部会も併催となりました。また、ワード 2010 形式での編集となり、少し安定度が増しました。

本号は平成 27 年度総会の報告になります。会則も改訂されました。会費の早期納入をお願いします。

これから、山博シンポジウム「日本アルプスと氷河」、「山の歴史ウォーキング」が計画されています。行事のご案内は毎月発行される「山と博物館」でご確認ください。

前号、印刷不手際によりページ送りが逆になりました。お詫び申し上げます。山博ホームページから PDF 版がダウンロードできます。

(丸山卓哉)

ゆきつばき通信 第 165 号

発行／大町山岳博物館友の会 平成 27 年 5 月 5 日

〒398-0002 長野県大町市大町 8056-1

大町山岳博物館内 山博友の会事務局 Tel/Fax 0261-23-6334

会費振替口座番号 00550-2-24194 加入者名 山博友の会

山博ページ <http://www.omachi-sanpaku.com/>

友の会は、山博の情報発信のために山博ホームページの維持に協力しています